

昭和58年度  
(第10回)

空 港 セ ミ ナ ー  
実 施 要 領

昭和58年9月

国際協力事業団  
研修事業部



研
JR
83-1

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 6. 29	000
登録No. 10462	75.7 TA

マ  
フィルム

## 目 次

1. コース名等 .....	1頁
2. コースの目的・背景 .....	1
3. 到達目標 .....	2
4. 研修項目・研修方法 .....	2
5. 研修員参加資格要件 .....	4
6. 研修実施体制及び運営 .....	5
7. 研修・宿泊施設 .....	5
8. 研修教材・資機材 .....	5
9. 研修付帯プログラム .....	6
10. 研修の評価 .....	6
11. その他 .....	6

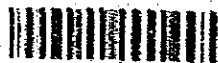
付表-1 研修日程(案)

付表-2 関係者リスト

付表-3 国別研修員参加実績表

付表-4 昭和58年度参加研修員リスト

JICA LIBRARY



1008196121



## 1. コース名等

### 1) コース名

- 和文；空港セミナー
- 英文文；SEMINAR ON AERODROME

### 2) 研修期間

昭和58年9月23日から同年11月6日まで(45日間)

### 3) 定員 10名

## 2. コースの目的・背景

### 1) コースの目的

本コースは、我が国の技術協力計画の一環として日本政府によって設けられ、途上国の空港関係技術者、主に空港建設計画技術者、及び空港管理運営技術者の知識、技術力向上に寄与すべく実施するものである。

### 2) 背景

近年、国際航空需要の伸びはめざましく、航空輸送は大型ジェット機を用いた大量輸送時代を迎えており、発展途上国においてもそれら航空需要の増大と機材の大型化に対応すべく、空港拡張・整備、新空港の建設が計画されている。

また一方、途上国では国内においても道路鉄道等の交通基盤の整備が十分でない場合が多く、航空が国内終点間の重要な交通手段となっており、国内空港の整備も重要な課題となっている。

しかしながら途上国においては、自ら空港を建設した歴史が浅く、また空港関係技術者も少数であり、これら技術者の養成は急務となっている。

このような途上国の事情をふまえ、昭和49年度に本コースが開設され、昨年度までに9回実施し、27ヶ国計81名の研修員が参加している。

### 3. 到達目標

#### 1) コース全体の到達目標

- (1) 日本の航空全般についての理解
- (2) 空港建設計画手法の習得
- (3) 空港管理業務の理解
- (4) 参加国各国の航空事情の理解

#### 2) 主要研修項目の到達目標

##### (1) 日本の航空

日本の航空の現状，航空行政組織，航空法，空港整備法，空港整備計画などについて全般的な知識を得る。

##### (2) 空港建設計画

ア、空港のマスタープランの作成手法に関する知識を得る。

イ、ターミナルビル，エプロン，航空保安施設等，個々の空港施設の建設計画に必要な知識を得る。

ウ、日本の空港土木施設設計基準に関する知識を得る。

##### (3) 空港管理

日本における空港の管理業務について理解する。

##### (4) 各国航空事情

研修参加各国の航空事情を把握し，理解する。

### 4. 研修項目，研修方法

#### 1) 研修項目

##### (1) 日本の航空事情

ア、日本の航空の現状

イ、日本の空港整備計画

(2) 空港建設計画

ア、マスタープラン

イ、エプロン計画

ウ、ターミナル計画

エ、NAV-AIDS 計画

オ、空港照明計画

カ、空港経済

(3) 空港管理

ア、空港管理組織と業務

イ、新東京国際空港の管理と運営

(4) 各国航空事情

(カントリーレポート発表討論による)

(5) 見学

ア、東北地方

秋田空港

仙台空港

航空保安大学校岩沼分校

電子航法研究所

イ、九州・関西地方

長崎空港

大阪空港

新明和工業株式会社

2) 研修方法

(1) 講義

上記①～③の項目につき、我国の航空分野における講師陣がテキスト、レジュメあるいはビデオ等の視聴覚教材を用いて講述する。

尚、本コースは「セミナー」と呼称しており、研修プログラム中に質疑応答あるいは討論の時間を設けるよう努めている。

## ② カントリーレポート発表・討論

研修員が応募時に提出したカントリーレポート(テーマ;自国の空港開発計画及び空港管理運営と空港整備上の問題について)に基づき、他の研修員及び講師に対し自国の航空事情を発表し、相互に意見を交換することによって各国航空事情について理解を深め自国のそれとを比較検討する。

## 5. 研修員参加資格要件

### 1) General Information (G. I)に示した研修員の参加資格要件は次の通りである。

- (1) 当該国政府より指名された者であること。
- (2) 民間航空の分野で3年以上10年未満の経験を持ち、大学卒業者、もしくは同程度の学力を有する者
- (3) 当該国政府もしくは民間航空に関する公的機関等に従事している者
- (4) 英語能力が十分であること
- (5) 心身共に健康であること、妊娠していない者

### 2) 人選方法及び選考基準

参加割当国に対して日本国大使館等を通じて配布される本コースのG・Iに基づいて相手国政府から提出される要請書(A, フォーム)により、上記G.I記載中の資格要件を主たる選考基準とし、国際協力事業団と運輸省航空局とが協議の上人選を行う。

### 3) 割 当 国 14カ国

ビルマ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、香港、エジプト、イラク、ジョルダン、ケニア、ジンバブエ、ブラジル、パラグアイ

### 4) 応 募 状 況

ブラジルから5名、インドネシアから3名、フィリピン、タイ、イラクから2名、ビルマ、マレーシア、シンガポール、香港、エジプト、ケニアから1名計11カ国から20名(定員10名のところ10名オーバー)の応募があった



が、本年度は11ヶ国から12名を受入れた。

5) 本年度参加研修員

付表-4 参照

6. 研修実施体制及び運営

本研修コースは、国際協力事業団と運輸省、及び株式会社日本空港コンサルタンツとの協力により実施運営するものとする。

7. 研修・宿泊施設

水道橋グランドホテル

東京都文京区本郷1-33-2

〒113 TEL (03) 811-4176

8. 研修教材・資機材

(1) テキスト

- THE SEMINAR IN AERODROME BY THE GOVERNMENT OF JAPAN
- DESIGN STANDARDS FOR AIRPORT CIVIL ENGINEERING FACILITIES IN JAPAN
- THE SEMINAR ON AERODROME, AIRPORT PAVEMENT
- THE SEMINAR ON AERODROME, AIRPORT LIGHTING SYSTEM

(2) ビデオ, スライド

- ・長崎空港建設, 秋田空港建設
- ・航空保安施設(無線施設)

(3) そ の 他

講義の際, 配布されるレジメ, 見学先で提供されるパンフレット, 映画他

## 9. 研修付帯プログラム

国際協力事業団主催の集合ブリーフィング及びジェネラル・オリエンテーション

## 10. 研修の評価

セミナー終了時に評価会を開き, 研修員各自が作成したファイナルレポートに基づき, 研修成果及び感想等の発表及び意見交換を行う。

これにより, 研修員の理解の程度を把握する。

また, 本セミナーの構成, 内容等についても研修員の意見を聞くとともに, セミナー終了後, 国際協力事業団担当者, 研修監理員, 運輸省担当者, 株式会社日本空港コンサルタンツ担当者の出席のもとに反省会を開き, 本セミナーの評価並びに今後の改善点等について検討することとする。

## 11. そ の 他

### 研修監理員の配置

国際協力事業団は研修業務を円滑に遂行すべく, 業務調整並びに, 通訳業務を兼ねた研修監理員を必要期間配置する。

付表-1 研修日程(案)

月日	曜日	プログラム	実施場所	講師名	宿泊場所
9/23	金	来日	JICA(TIC)		↑
24	土	JICAブリーフィング	JICA(TIC)		
25	月	JICAオリエンテーション	JICA(TIC)		水道橋グランドホテル
26	火				
30	金				
10/2	日				↓
3	月	JCAB表数/ 日本の航空の現状	CAB/ Hotel	/ 渡辺 一 洋	水道橋グランドホテル
4	火	日本の空港整備計画	Hotel	長谷川 浩 (辻 安 治)	' '
5	水	見学旅行 (移動)	東京国際空港・秋田空港		
6	木		仙台空港		
7	金	仙台空港, 航保 大岩沼分校 電子航法研究所 仙台→東京(移動)	航保大岩沼分校 電子航法研究所		水道橋グランドホテル
8	土				
9	日	(Free)			' '
10	月	(Free)			' '
11	火	マスタープラン	Hotel	藤 本 茂 彦	' '
12	水	'	'	'	' '
13	木	エプロン計画	'	久 保 忠 一	' '
14	金	東京航空交通首脳部見学	埼玉県所沢市 東京航空交通首脳部		' '
15	土	空港照明計画 空港様式	Hotel	吉 田 隆 治	' '
			JAC会議室	野 崎 広 義	
16	日	(Free)			水道橋グランドホテル
17	月	港湾技術研究所見学	神奈川県久里浜市 港湾技術研究所		' '
18	火	ターミナル計画	Hotel	福 岡 博 次	' '

月日	曜日	プログラム	実施場所	講師名	宿泊場所
10/19	水	NAV-AIDS計画 空港管理組織と業務	Hotel	川田 輝 雄 春 成 誠 (下 村 俊 夫)	水道橋グランドホテル
			CAB		
20	木	カントリーレポート討議	Hotel		水道橋グランドホテル
21	金	、	、		、
22	土	(Free)			、
23	日	(Free)			、
24	月	空港土木設計基準 成田空港の管理と運営	Hotel	宮 下 盛 雄 山 本 隆 造 岡 崎 忠 治	、
			空港公団会議室		
25	火	見学 旅行 (新明和工業)	[長崎空港]		
			長崎空港		
26	水	[大阪空港]	大阪空港		
27	木	見学 旅行 (新明和工業)	新明和工業株式会社		
28	金		大阪→東京(移動)		
29	土				水道橋グランドホテル
30	日	(Free)			、
31	月	運輸関係経済技術協力	Hotel	樋 口 康 雄	水道橋グランドホテル
11/ 1	火	新東京国際空港見学	新東京国際空港, 空港公団		、
2	水	レポート作成	Hotel		、
3	木	(Free)			、
4	金	14:00 16:00 評価会議, 閉講式	国際協力事業団本館		、
5	土	帰国準備			、
6	日				

付表-2 関係者リスト

講 義 名	予 定 日	講 師 ・ 氏 名	所 属
1. 日本の航空の現状	10/3	渡 辺 一 洋	運輸省航空局 航空企画調査室企画係長
2. 日本の空港整備計画	10/4	長谷川 浩 治 (辻 安 治)	計画課係長
3. 空港計画(マスタープラン)	10/11,12	藤 木 茂 彦	日本空港コンサルタンツ
4. (エプロン)	10/13	久 保 忠 一	日本航空成田支社長付次長
5. (ターミナルビル)	10/18	福 岡 博 次	日本空港コンサルタンツ
6. (NAV-AIDS)	10/19	川 田 輝 雄	運輸省航空局無線課 航空官制技術調査官
7. (照 明)	10/15	吉 田 隆 治	照明課補佐官
8. 空 港 経 済	10/15	野 崎 広 義	日本空港コンサルタンツ
9. 空港管理組織と業務	10/19	春 成 俊 誠 (下 村 俊 夫)	運輸省航空局管理課補佐官
10. 新東京国際空港の管理と運営	10/24	岡 崎 忠 治	新東京国際空港公団調査役
11. 空港土木設計基準	10/24	宮 下 盛 雄 山 本 喜 造	運輸省航空局建設課専門官 、 、 、
12. 航空関係国交経済技術協力	10/31	樋 口 康 雄	、 、 国交課航空交渉官
13. カントリーレポート別議	10/20,21	(航空局国交課 建設課)	

付表-3 国別研修員参加実績表

単位 (人)

国名	年 度									総 計	
	49	50	51	52	53	54	55	56	57		
韓 国	1			1							2
タイ		1	1	1	1	1	2	1	1		9
ビルマ				1			2		1		4
バングラディシュ					1	1		1			3
インド					1						1
アラブ首長国連邦			1								1
イラク				1	1						2
フィリピン			1	1	1	1	1	1	2		8
シンガポール				1		1					2
インドネシア			1		1		2	1	1		7
バブアニューギニア						1	1				2
エルサルバドル		2									2
ホンジュラス					1	1	1	1	1		5
ペルー						1	1				2
ボリヴィア				1	1	1			1		4
パラグアイ						2	1	1			4
エチオピア			1								1
スーダン		1									1
ケニア	1	1	2	1		1					6
ウガンダ			1								1
タンザニア		1									1
マダガスカル	1	1	1		1						4
リビア	1		1								2
ブラジル								2	1		3
エジプト								1	1		2
マレーシア								1	1		2
香 港									1		1
27ヶ国計	4	7	10	8	9	11	11	10	11		81

付表-4 昭和58年度参加研修員リスト

List of Participants  
of Seminar on Aerodrome

Duration: Sep. 23, 1983 - Nov. 06, 1983  
Place: Suidobashi Grand Hotel.

No.	Country	Name of Participant (Mr., Mrs., Miss Dr.)	(Age)	Present Post of Participant
1.	Brazil	Mr. Luiz Kazumi Miyada	27	Operations Engineer, INFRAERO - Empresa Brasileira de Infra - Estrutura Aeroportuaria
2.	Burma	Mr. Tun Aung	48	Executive Engineer, Airfield Project Construction Corporation, Ministry of Construction
3.	Egypt	Mrs. Nafissa Mahmoud El Nacharty	39	General Director of Technical Projects, Ministry of Civil Aviation
4.	Hong-Kong	Mr. NG, Ki-Sing	30	Planning Officer, Civil Aviation Dept., H.K. Government
5.	Indonesia	Mr. Yayoeh Wahyoe	36	Chief of the Runway Classification, Division of Directorate General of Air Communication (DGAC)
6.	Indonesia	Mr. Sugianto Setyabudi	34	Chief of the Site Planning Section, DGAC
7.	Iraq	Mr. Riadh Chanim Hassan Al-Chulami	27	Deputy Director of Civil Engineering Section at Saddam International Airport
8.	Kenya	Mr. Ismail Hassan	35	Personal Assistant of Director of Aerodromes Department Ministry of Transport & Comm.
9.	Malaysia	Mr. Ku Azizain Bin Ku Hashim	32	Airport Manager, Department of Civil Aviation Malaysia
10.	Philippines	Miss. Ma Filipinas D. Zarate	23	Transport Development Officer, Ministry of Transportation & Communications
11.	Singapore	Mr. Lim Sang Hook	34	Civil Aviation Officer, Department of Civil Aviation, Singapore
12.	Thailand	Mr. Suraphong Sanphakit-Jamnonng	38	Senior Civil Engineer, International Audit & Inspection Office, Airports Authority







